

2025年4月18日

神戸アイライト協会 ご利用の皆様

神戸アイライト協会の現状とこれから

来年度(2026年度)の相談対応、歩行訓練、ICTサポートでのお願い

神戸アイライト協会

理事長 森 一成

春風に誘われて、外出の機会も多くなりましたが、如何お過ごしでしょうか？皆様にはいつも神戸アイライト協会を支えていただき、本当にありがとうございます。ホームページやイベント等で、度々お伝えしてきましたので、すでにアイライトの窮状についてご存じの方も多いかも知れませんが、今回 私たちの大きな決断について、皆さんにお伝えしたいと思い、このような文章を作成しました。

神戸アイライト協会は、神戸市からの委託という形で、視覚障害に対する様々なご相談を受けし、訪問歩行指導や IT 機器のサポートなどの視覚リハビリテーションを行ってきました。地域の視覚障害福祉をささえるため、一生懸命取り組んできたつもりであり、また、今後も、微力ながら力になっていきたいと考えています。しかし、初めは、ボランティアから始まり、次に視覚障害者トータルサポート事業として神戸市で事業化され、形を変えながら何とか続けてきたこの事業ですが、続けていくことが難しい状況となっています。私たちは、視覚障害福祉の充実、視覚リハビリテーションの普及を目指して、専門職を確保し、人員を増やし、充実した相談体制を取れるようにと目指してきました。実際に、相談や支援の件数は、年々増えていき、ニーズの高さを痛感しています。しかし、この事業の取り組みに対する評価、保障は、私たちが感じている現状とはかけ離れたものでした。支援体制を充実させるためには、もちろん人員の確保が必要であり、それには資金が必要です。しかし、この事業に対する委託費は、大きく削減され、継続が難しい水準となっています。ここ数年、大きな赤字を覚悟して、緊急での寄付をお願いしたりと、別の形で資金確保を試みながら何とか続けてきましたが、ついに大きな決断をする時がきました。私たちは、現在行っている神戸市の視覚障害者生活訓練事業、視覚障害者生活支援事業から撤退をするという決断をしました。撤退をしなければ、神戸アイライト協会の存続自体が危ぶまれる状況であると判断したためです。そして、この決断には、もう一つの大切な思いがあります。それは、今のような到底持続していくことが難しいような形ではなく、きちんと持続可能な視覚障害福祉の体制を、アイライト協会が主導するのではなく、神戸市が責任を持って担っていくような体制を求めていきたいという考えです。そして、それをぜひ、みんなで創っていききたいと考えています。「nothing about us without us」という言葉をご存じですか？これは、国連の障害者権利条約にうたわれている言葉で、障害者基本法が一番大切な理念として掲げられています。私たちの問題、私たちを支えてくれる制度や事業について、私たちの声なしに、一方的に決めないでほしいという願いの込められた言葉です。私たちの住む地域の視覚障害福祉についての問題だからこそ、みんなで考えていくことができたら良いのではないのでしょうか。私たちの生活、私たちの社会、みんなで声をあげて創って行くことが必要だと思います。ぜひ、みなさんと力を併せて、一緒に神戸や兵庫県全体の視覚障害福祉の体制について、アイライトも一緒に考えていけたらと思っています。

これからどうなるのか？ということが、きつととても不安だと思えます。この1年が、とても大切な1年になります。私たちは、2025 年度を「勝負の年」と考えています。本当は、2025 年の3月末を持って、事業から撤退をすることも考えていましたが、新しい支援体制を創るためにも、アイライトが次の段階に移行するためにも、そして、アイライトを利用してくださっている皆さんにも、準備をする時間が必要なのではないかと考え、2025 年度の一年間に限り、事業を継続するという決断をしました。そして、この1年間という時間を使って、みんなで神戸市ひいては兵庫県における視覚障害福祉の新たな形を模索していきたいと考えています。その中心は、地域に住む皆さん一人ひとりと、地域の市役所や県庁です。アイライトは、今後、通所事業や講習事業などに専念しながら、地域の視覚障害福祉を別の角度から支えられるように、自分たちのやるべきことをしっかりと見据えていきたいと思えます。

皆さんには、心配も負担もたくさん掛けることとなるかもしれませんが、この過程がよりよい未来に続いていくために欠かせないものだと思っています。ぜひ、ご理解とご協力をお願いします。

参考「視覚リハビリテーション」とは

視覚リハビリテーションとは簡単に言うと「見えづらさ対応術」です。視覚リハは視覚リハビリテーションの略称です。視覚障害リハビリテーションということもあります。視覚リハは、視覚障害の人が少し残っている保有視覚、視覚以外の感覚(触覚、聴覚など)を活用して、ロービジョン補助具や ICT 機器を学んだり、白杖歩行の専門家(歩行訓練士)に白杖歩行を学んだりすること。それにより、見えにくい・見えないために「できなくなったこと」を「できる」ように改善する取り組みです。それにより再び歩行、家事、読み書き、情報入手などができるようになることを目指します。歩行訓練、ICT 機器、ロービジョン用具の使用等さまざまな内容があります。視覚リハの適切な情報を提供する専門相談も含みます。

今後変わっていく可能性が高いもの

- ・ 相談対応
- ・ 歩行訓練
- ・ ICT サポート